

“わたしのまち”

墨田区

歩いて楽しい「まち歩き」で新発見

「博物館や美術館が集まる歴史と文化のまち」

「ものづくりのまち」として発展してきた墨田区には、作り手の息づかいを感じることもできる、工場や工場の一角に設けられた小さな博物館が点在しています。また、外国からの観光客も多く訪れる「江戸東京博物館」や昨年オープンした「郵政博物館」なども人気を集めています。区が現在、整備を進めている「すみだ北斎美術館」をはじめ、今後も多くの博物館や美術館が開設する予定となっており、まち歩きをしながら歴史や文化に触れることができます。



北斎肖像 深斎英泉画

「ものづくり」の魅力を体感

墨田区では、昭和60年から区の象徴である産業のPRとそのイメージアップのための取組として「すみだ3M（スリーエム）運動」を展開しています。

この取組の一つである「小さな博物館」は、墨田区の産業や文化に関するコレクションを工場、作業場、民家などの一部を利用して展示するものです。その名称のとおり「小さな博物館」ですが、訪れる人は展示されている作品や道具、制作工程などを見るだけでなく、館長さんから直接詳しい説明を聞くことができるのが、その醍醐味です。屏風、木目込人形、羽子板、藍染などの伝統工芸から、硝子や革製品などの地場産業、水着や軟式野球ボールなど

のスポーツ用品まで、幅広い分野の27館が認定されています（平成26年12月現在）。

また、ものづくり体験ができる博物館も多数あり、その技術を自ら体感することでも、ものづくりの素晴らしさや奥深さを味わうことができます。

現在、区では「産業」と「観光」の融合を推進しており、小さな博物館はその拠点として、より多くの観光客に足を運んでもらえるように取り組んでいます。

*「3M」とは、区の産業や文化に関するコレクションを事業所や民家等で公開する「小さな博物館（Museum）」、工房と店舗の機能を備えた、製造と販売が一体化した「工房ショップ（Manufacturing shop）」、付加価値の高い製品を創る技術者である「すみだマイスター（Master）」のことで、区を訪れる人たちにものづくりの素晴らしさや大切さをアピールする、すみだらしさを生かした取組。



平成28年度開館の「すみだ北斎美術館」外観イメージ。地下1階・地上4階の建物の外観は、見る場所や角度によってさまざまな表情を見せる、いくつかの小さな建物が合体したような特徴的な形態で、周辺地域の雰囲気とも調和しつつ、まちの新たなシンボルになる



区が誇る絵師・葛飾北斎の美術館を開設

「すみだ北斎美術館」の開設

ゴッホやドガなど海外の芸術家にも大きな影響を与えた江戸の絵師・葛飾北斎は、90年の生涯のほとんどを区内で過ごしました。作品の中には、両国橋や三囲神社、牛嶋神社など、当時の「すみだ」を描いたものが数多くあります。北斎の生誕地付近は現在「北斎通り」という愛称で親しまれており、毎年10月には「北斎祭り」が開催されるなど、北斎をテーマにしたイベントが実施されています。



昨年11月15日16日には、すみだ産業会館で「すみだ3M運動30周年祭」が開催された。区内の約60の事業者が参加し、多くの来場者でにぎわった

区は、「すみだ」ゆかりの葛飾北斎を区民の誇りとして永く顕彰するとともに、地域の産業や観光を盛り上げるための地域活性化の拠点として、北斎通

りに面した緑町公園内に、「すみだ北斎美術館」を平成28年度に開館します。

この美術館では、北斎及び門人の作品を紹介するほか、北斎と「すみだ」との関わりなどについてわかりやすく伝えていくため、展覧会をはじめ、講座やワークショップ等さまざまな普及事業を行う予定です。

国内だけでなく海外へも北斎の情報を発信する、国際観光都市「すみだ」の拠点となる施設として期待されています。

美術館の着工にあたり区では、「墨田区北斎基金」を設置し、寄付キャンペーンを行っていきます。絵画一口オーナーや、一日北斎（館長）など楽しい寄付メニューになっており、自分たちの美術館として愛着が持てる取組です。集まった寄付は、美術館の建設や資料収集、開館後の展覧会の充実のために活用してまいります。

また、「墨田区北斎基金」への寄付の納付方法として、新たにインターネットによるクレジット決済も昨年末から始まりました。

北斎とつながるさまざまな取組

すみだ北斎美術館の開設を前に、各地で北斎とつながるさまざまな活動や取組が行われています。

地元企業では、区が所蔵する北斎の作品をデザインに取り入れたオリジナル製品を制作しています。北斎の作品をプリントした

屏風、グラスやカードケース、パスケース、ブックカバーなどの製品は、「北斎オリジナルグッズ」として販売され、ものづくりのまち「すみだ」発の商品として人気です。

また、すみだ水族館では、白地のTシャツに北斎が描いた金魚などの水生生物のスタンプを押し、世界にひとつだけのオ

“世界の北斎”の美術館に名前を残すチャンス

「すみだ」から発信していく新たな取組に、多くの人々がこのプロジェクトに参画できるよう、「墨田区北斎基金」を設置し寄付キャンペーンを実施しています。一定額以上の寄付をした人は、創設への功労者として、美術館がある限り名前を掲示します。

個人寄付のメニューは、北斎の代表的作品「富嶽三十六景」等の一口オーナーになれる**絵画一口オーナー**（作品展示の際に名前が掲載され、特別な公開時に招待される）、5年間有効の入館無料パスが進呈され、さらに一日だけ館長になることができる**一日北斎**、北斎サポーターデーに招待され、1年間有効の無料パスが進呈される**北斎サポーター**、1口1000円で気軽に協力できる**北斎寄付**などさまざまな種類があります。

絵画一口オーナーと一日北斎は館内の寄付者銘板に名前が掲載されるので、家族へのプレゼントや特別な日の記念としても最適です。



墨田区観光協会が作成した「2015 富嶽三十六景 北斎浮世絵カレンダー」。2015年から2017年の3年間のシリーズで全36枚が揃い、売上の一部は「墨田区北斎基金」への寄付になる

オリジナルTシャツを作るといった体験プログラムが行われるなど、さまざまな切り口で北斎とコラボしたイベントが実施されました。

区では、北斎を気軽に楽しく生かして実施するイベントや企画のアイデアを募集し、「北斎×○○」のコラボで地域全体を活性化していこうとして

現在の支援金額

189,300,160円 平成26年11月30日現在

“わたしのまち”

墨田区



北斎の作品をデザインに取り入れた「北斎オリジナルグッズ」。写真は、布ショルダーバッグ（白石布帛製品）、革おりがみ北斎名刺入れ・小銭入れ（丸刈片野製鞆所）、自分で作るからくり屏風キット・北斎編（片岡屏風店）



200名以上の参加者が集まった「北斎×〇〇」アイデアフォーラムでは、「すみだ北斎美術館を版画・浮世絵体験ができる場にしたい」「北斎画以上の“変顔”を披露してくれたら入場料を半額にする」「もし北斎が自分の国を浮世絵で描いたら？」をテーマにした世界規模の公募展の実施」「富嶽三十六景」のように、「武蔵(634)三十六景」で富士山の代わりに関東一円から見える東京スカイツリーをモチーフに三十六景を公募」などユニークなアイデアが続出した



「北斎ヨガ」では、スクリーンに投影された北斎の絵を手本にポーズをとった。「面白かった」「新鮮だった」「ゆったりと身体を動かすとともに、北斎の絵の意味も知ることができて楽しかった」といった感想が参加者から上がった



また、すみだトリフォニーホールで平成21年から平成25年まで開催された「邦楽演奏会 北斎の音楽（おと）を聴く」や、「江戸すみだ発 北斎感覚―暗闇の音のキオク×富山清琴「人間国宝 地歌・三絃」」（平成26年度）と題したコンサートも好評でした。北斎の

「北斎×プロジェクト」など北斎をより楽しむためのアイデアが合計550件以上提案されました。その他にも北斎と関連づけた独創的な取組が好評を博しており、中でも昨年2月・3月に実施された「北斎ヨガ」のイベントは、盛況のうちに終了しました。北斎の代表的絵手本「北斎漫画」に描かれた人物をもとにポーズをとるというユニークなヨガで、参加者は身体の健康維持と同時に楽しく北斎の作品に触れることができました。

います。その一環として昨年9月4日に「北斎×〇〇」アイデアフォーラムを、そして同年11月18日にはアイデアフォーラム第2弾「女子会トーク」を開催し、北斎を活用して地域を元気にする方法、すみだ北斎美術館に期待することなどについて自由にディスカッションしました。二度にわたるフォーラムで、「北斎×ファッション」「北斎×プロジェクト」

作品の中には、楽器や演奏風景を描いたもの、生活の中さまざまな「音」を表現したものも数多く見られます。北斎が活躍した時代の音楽などを紹介するこれらのコンサートでは、当時の獅子舞を上演するなど江戸の音風景を再現したり、北斎の生い立ちや作品に関して学芸員による解説があったりと、通常とは一味違った趣向で開催しました。こうした北斎とつながるさまざまな活動や取組は、地域での新しい交流を

続々とオープンする新観光スポット

区内には他にもたくさん博物館等があり、加えて、近年続々と人気のある博物館が、区に集まってきています。以前から人気を博しているのが、外国人も多く訪れ、歴史を体感できると評判の「江戸東京博物館」で、同じく両国エリアにある「相撲博物館」も墨田区ならではの文化が味わえます。子どもたちには、電車の運転を体験できると「東武博物館」も人気です。昨年3月には、大手町にあった旧通信総合博物館が東京スカイツリータウン内に移転し、「郵政博物館」として開館し、配達ゲームなども楽しめます。

生み出し、まちの活性化へとつながっています。

地元の商店街や銭湯などでも美術館開館に向けて盛り上がりつつあり、商店街ではポイントカードの図柄を北斎作品にしたり、北斎作品のフラッグを掲げたり、イベントを開催しています。

また、区内にある銭湯では、北斎作品の湯めぐりスタンプを集めると無料入浴券がもらえるという取組を行っています。

今後、平成27年春には日本たばこ産業（JT）の工場内に「たばこ塩の博物館」がオープンする予定です。さらに、代々木にある「刀剣博物館」も両国に移転する予定です。

墨田区は、下町情緒あふれる街並みや古くからのものづくりの伝統に触れることができるだけでなく、平成24年に開業し多くの観光客を集める東京スカイツリーを中心に、伝統とモダンが融合する魅力あふれるまちです。博物館や美術館をめぐり、まち歩きすることで、そうした区の魅力をたっぷり味わうことができます。